

愛知4大オーケストラ・フェスティバル2026

# チャイコフスキー交響曲 演奏会

愛知室内オーケストラ音楽監督

山下 一史



Kazufumi Yamashita

©ai ueda

名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督

川瀬 賢太郎



Kentaro Kawase

中部フィルハーモニー交響楽団芸術顧問

藤岡 幸夫



Sachio Fujioka

©Shin Yamagishi

セントラル愛知交響楽団音楽監督

角田 鋼亮



Kosuke Tsunoda

©Makoto Kamiya

13:00~ 愛知室内オーケストラ

交響曲第1番 短調 作品13『冬の日幻想』

14:10~ 名古屋フィルハーモニー交響楽団

交響曲第4番 短調 作品36

15:20~ 中部フィルハーモニー交響楽団

交響曲第5番 短調 作品64

16:35~ セントラル愛知交響楽団

交響曲第6番 短調 作品74『悲愴』

2026 9.5 (土)

11:45開場 12:30~プレトーク 13:00開演 (17:25終演予定)

愛知県芸術劇場コンサートホール

全席指定 (税込)

S席 / 12,000円 A席 / 9,000円 B席 / 6,000円

セレクト・プラチナ席 / 24,000円 プラチナ席 / 18,000円

特典 指揮者4名のサイン付きプログラム セレクト・プラチナ席 リハーサル見学 (9/4開催) セレクト・プラチナ席 プラチナ席

※ユース割引 (S・A・B席を50%割引) …25歳以下対象 ※セレクト・プラチナ席、プラチナ席、車椅子席 (車椅子利用者及び介添人1名まで対象/7,200円 (電話予約のみ)) はアイ・チケットのみ取扱い。

主催: 愛知4大オーケストラ・フェスティバル実行委員会 ((一社)愛知室内オーケストラ、(公社)セントラル愛知交響楽団、NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団、(公財)名古屋フィルハーモニー交響楽団、愛知県芸術劇場 (愛知県文化振興事業団))

共催: 中日新聞社

協賛: 医療法人 葵鐘会、ガイドー株式会社、宗次ホール、リンナイ株式会社、中西電機工業株式会社、NTPホールディングス株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン

後援: 愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、(公社)日本オーケストラ連盟、(一社)日本クラシック音楽事業協会

協力: クラシック名古屋

公演の情報は  
こちら





指揮：山下一史  
(愛知室内オーケストラ音楽監督)

桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール優勝。カラヤンが亡くなるまで彼のアシスタントを務める。その後ヘルシンボリ響首席客演指揮者を務めた。日本国内ではN響を指揮してデビュー、以後主要オーケストラに定期的に出演。これまでにアンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者ならびに名誉指揮者、仙台フィル指揮者ならびに正指揮者を歴任。オペラ、オーケストラの両面においてますます注目を浴びている。愛知室内オーケストラ音楽監督、千葉交響楽団音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者、東京藝術大学音楽学部指揮科教授。

愛知室内オーケストラ

2002年、愛知県立芸術大学出身の若手演奏家を中心として発足。定期演奏会をはじめ、子ども向けファミリーコンサートや学校でのアウトリーチ公演など積極的な活動をしている。2015年から6年間新田ユリが常任指揮者を務め、2022年4月に山下一史が初代音楽監督、2023年4月に権代敦彦が初代コンポーザー・イン・レジデンス、2024年4月に原田慶太楼が首席客演指揮者兼アーティストック・パートナーに就任。同年8月にはピアニスト・横山幸雄をフレンド・オブ・ACOに迎えた。2016年度名古屋芸術奨励賞、2023年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞。



指揮：川瀬賢太郎  
(名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督)

東京生まれ。2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を伝上淳一氏などに師事。2006年第14回東京国際音楽コンクール(指揮)において2位(最高位)に入賞。卓越したプログラミングで躍動感あふれる演奏を聴衆に届けている。オペラにおいても、細川俊夫作曲『班女』、モーツァルト作曲『魔笛』などを指揮し、目覚ましい活躍を遂げている。2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞ほかを受賞。現在、OEKパーマネント・コンダクター、札幌交響楽団正指揮者、東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任教授、三重県いなべ市親善大使。2023年4月より名古屋フィル音楽監督に就任。

名古屋フィルハーモニー交響楽団

日本有数のオーケストラの一つとして、愛知県名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードし続けている。川瀬賢太郎音楽監督のもと、その革新的な定期演奏会のプログラムや、充実した演奏内容で広く日本中に話題を発信。創立60周年を迎える2027年1月には、5度目の海外公演を予定している。現在の指揮者陣には小泉和裕(名誉音楽監督)、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ティエリー・フィッシャー(名誉客演指揮者)が名を連ね、2026年4月に冷水乃栄流が第5代コンポーザー・イン・レジデンスに就任する。地元では「名(めい)フィル」の愛称で親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。



指揮：藤岡幸夫  
(中部フィルハーモニー交響楽団芸術顧問)

日本指揮者界の重鎮であった渡邊暁雄最後の愛弟子、サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。英国王立ノーザン音大指揮科卒業。1992年最も才能あるEU加盟国の若手指揮者に贈られるサー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞を日本人にもかわらず特例で受賞。1994年ロンドン夏の風物詩(プロムス)にBBCフィルを指揮してデビュー以降、数多くの海外オーケストラに客演。首席指揮者として毎年40公演以上を共演してきた関西フィルとは2026年が27年目のシーズン、2025年4月からは総監督としても楽団を牽引する。2019年からは東京シティ・フィル首席客演指揮者も務める。2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。2026年4月、中部フィル芸術顧問に就任。BSテレ東「エンター・ザ・ミュージック」(毎週土曜朝8:30)に出演中。

中部フィルハーモニー交響楽団

2000年小牧市交響楽団として設立。2007年中部フィルハーモニー交響楽団に改称。設立当初より秋山和慶氏(2025年1月逝去)の指導の下で成長し、小牧市を拠点に「地域に根差したトップクラスのオーケストラ」をスローガンに、主に中部圏で精力的に演奏活動を行っている。古典から近代までの幅広いレパートリーと、アンサンブル技術で高い評価を得ている。2009年愛知県芸術文化選奨新人賞を受賞。2024年、日本オーケストラ連盟の正会員に昇格。2026年度より藤岡幸夫を芸術顧問に迎え新たな四半世紀の成長に挑む。また、飯森範親が首席客演指揮者を務める。



指揮：角田鋼亮  
(セントラル愛知交響楽団音楽監督)

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。ベルリン・コンツェルトハウス管、ブランデンブルグ響、上海歌劇院管、N響、読響、都響、東響、東京フィル、名古屋フィル、京響、大阪フィル、九響等と共演している。2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、2019年より常任指揮者に就任。2016-2020年 大阪フィル指揮者、2018-2022年 仙台フィル指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。2024年4月より、セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。

セントラル愛知交響楽団

1983年発足。2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2023年創立40周年。2024年4月から名古屋出身の角田鋼亮が音楽監督に就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。定期演奏会、第九公演の他、「超!有名曲」|「Wコンチェルト」等のシリーズを自主公演として展開。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演。幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を収める。

チケットのお求めはこちら

アイ・チケット 0570-00-5310

アイ・チケット 検索



チケットぴあ <https://t.pia.jp> ローソンチケット <https://l-tike.com> イープラス <https://eplus.jp> 芸文プレイガイド 052-972-0430

お問合せ：クラシック名古屋 052-678-5310

※未就学児のご入場はご遠慮ください。※やむを得ぬ事情により公演内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。※車椅子でご来場されるお客様はご購入前に必ずクラシック名古屋までお問合せください。